

ドイツにおけるモンテッソリー主義の導入過程——パスタロッター・フレーベル館 における実践を中心に——

柿原 知可子

広島大学

I.

モンテッソリー M. Montessori (1870~1952) が監督と指導を任された「子どもの家」がローマのスラム街に設立されたのは、1907年のことである。一斉に幼児教育史上モンテッソリーと並び称せられるフレーベル F. Fröbel (1782~1852) はすでに1840年に幼稚園を創設しており、かれの教育法は当時の幼児教育機関にかなり滲透していた。ゆえに、モンテッソリー運動をくり広げる過程でフレーベル主義の克服は大きな課題であった。モンテッソリー自身も「フレーベルの理想に示されているような現代的な学校では、教育者は子供達に対してちょうど庭師や農夫がかれらの植物に對するように振舞うのです。」(5, p. 10) と、フレーベルの幼稚園の正当性を認めながらも、しかし、良い農夫の後には科学者がついてきますと述べている。すなわちフレーベルには欠けていた科学性を要求し、幼児教育の科学化に努めたのである。科学的教育学に立脚したモンテッソリーの教育法が、伝統的フレーベル主義の根強かったドイツに導入されたのは、ベルリンのパスタロッター・フレーベル館の一室に設けられた「新しい子ども部屋」においてであった。1914年、ローマで開かれたモンテッソリーの第2回国際訓練コースに、パスタロッター・フレーベル館の幼稚園教師であったヘッカー H. Hecker という女性が生徒として派遣され、帰国後子ども部屋の指導を任されたのである。また、1920年の全国学校会議の幼児教育に関する委員会においてはモンテッソリーの教具が陳列され、その使用法が示された。そしてこの会議に出席していた関係者の間に、「フレーベルか、モンテッソリーか」という論議を呼び起こした。(11, p. 156)

このようにモンテッソリー主義はドイツの幼児教育界に徐々に導入されて行くのであるが、1933

年にはナチスの抬頭によりドイツにおけるモンテッソリー運動は阻止されてしまった。本論ではモンテッソリー主義導入のきっかけとなった、パスタロッター・フレーベル館の「新しい子ども部屋」における実践を、モンテッソリーの教育法と比較しながら明らかにしてみたい。

II.

まず、パスタロッター・フレーベル館について概観してみよう。この館を設立したのは、シュラーデル・ブライマン H. S. Breymann (1847~1899) という女性であった。彼女は、大叔父にあたるフレーベルを助けて、フレーベル式幼稚園の普及に努めたのであるが、当時の幼稚園は、生活から遊離した形式的な作業を子どもたちに行わせて、彼らの発達を妨げていると批判した。そしてフレーベルの真の根本思想を実践するために1872年、国民幼稚園を創設し、さらに88年に小学校低学年のクラス、幼稚園教員養成のコースなどを付設して、パスタロッター・フレーベル館と名づけた。この幼稚園では、家事労働の手伝い、動植物の世話など生活と結びついた活動が重んじられ、他にはフレーベルの恩物による作業、体操、お祈りなどが行われた。開園時間も9時から4時までと長時間にわたっていた。そして希望者には給食も出されていた。

その名が表わしているように、パスタロッターとフレーベルの教育思想の実現に努めていたパスタロッター・フレーベル館が、かれらの思想に固執しないで、「もはやルソー・パスタロッター・フレーベルという過去の偉大な教育者を研究するのではじゅうぶんでなくなつた。」(14, p. 16) と述べて、かれらの教育法をさらに発展させたモンテッソリーに関心を抱き、彼女のもとに教師を派遣したのは卓見だったと思われる。

H. ヘッカーは、国際訓練コースでモンテッソ

リーの講義を受けたり、実習を行ったりしている中に、モンテッソリーの教育法はまったく新しいものではなく、既存の幼稚園をくつがえしてしまわなくてもモンテッソリー法を取り入れることが可能であるとの認識を深めた。ゆえにヘッカーが「新しい子ども部屋」を設立した時、この部屋にはモンテッソリー教具の他にもフレーベルの恩物や作業材料なども備え、それらの選択は子どもたちに任せるという方針であった。

まず保育時間をみると、モンテッソリーの子どもたちは子どもの教育という母親の機能の社会化をねらっていたから、長時間にわたっていた。一方、子ども部屋は、指導者不足のため午前中に限られていたため、働く母親にとっては不向きであったと思われる。しかし、ヘッカーの報告によればさまざまな社会層の子どもたちが通っているということである。

次に設備についてみると、モンテッソリーは子どもの家の設備についての最も大切な改革はベンチの廃止であると述べて、椅子やテーブルは子どもたちが動かせるように軽く、小さいものにした。もっともパスタロッター・フレーベル館においても以前から固定されたベンチや大きな机は設置されておらず、モンテッソリーが奨励した、動植物の飼育栽培のための家畜小屋や花壇などもすでに備えてあった。

モンテッソリーの子どもたちは3歳から6歳までの幼児を対象としていたが、彼女は家庭は一般に同一年齢によって構成されていないからと、クラスを同一年齢によって編成しなかった。このような編成法は、幼稚園は学校ではなく家庭生活から模倣すべきであると主張していたパスタロッター・フレーベル館でも採用されており、2歳半から4歳半、4歳半から6歳までのクラスに分けられていた。なお、子ども部屋は最初は8人、後に24人からなる1クラスだったので、当然さまざまな年齢の子どもたちによって構成されていた。

モンテッソリーの教育法の特徴のひとつに無干渉の方法と呼ばれるものがある。それは、教師は子どもたちが自分自身で活動できるように準備す

るだけで、子どもが誤った時にも自ら改めるようにさせるという方法であった。このような自己教育の原理は、そのままヘッカーによって取り入れられ、彼女はしばしば、子どもたちが仕事したり遊んだりしている広間から抜け出しても、彼らが同じような熱心さと静けさで作業を続けていたと報告している。

教具については、モンテッソリーは子どもに対して大幅な自由を認めていたにもかかわらず、教具を勝手に使うことは許さなかった。例えばヘッカーの報告によると、ローマの子どもたちの家で子どもたちがはのみシリンドラーを車に想像して転がして喜んでいいると、教師によって禁止されたということである。ヘッカーはこのような禁止は、子どもの想像力の発達を阻止するからと、教具が規定通りの訓練以外の遊びに用いられても禁止しなかった。また彼女は、モンテッソリーの教具は最初は子どもたちによって歓迎されるが、その訓練をマスターしてしまうと魅力を失ってしまう、とモンテッソリー教具の欠点を指摘している。

Ⅲ.

以上パスタロッター・フレーベル館の子ども部屋における実践を概観したが、そこにおいては、モンテッソリーの教育法をそのままの形で受け入れたのではなく、また伝統的なフレーベル主義を固執しようとしたのでもなかった。このような導入法は、「私は人々がモンテッソリーとフレーベルを対比させることが全く理解できない。二人の思想は根本において共通しているのだから。」(S. 223)というヘッカーの言葉に象徴されている。

Ⅳ. 引用文献

- (1) Kindergarten. 1920
- (2) Die Erziehung. 1925.
- (3) H. Hecker und M. Muchow; Friedrich Fröbel und Maria Montessori. Leipzig. 1931.
- (4) M. モンテッソーリ著、吉本二郎他訳「モンテッソーリ法、0歳から6歳まで」あすなろ書房 1970.
- (5) M. モンテッソーリ著、坂本 寛訳「人間の形成について」エンデルレ書店 1971